

中等教育研究開発室年報 第34号（2021年3月31日発行）別冊電子版
2020年度 授業実践事例

芸術（美術）科 中学校第1学年

絵文字を楽しむ

授業者 森長 俊六

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校 美術科 学習指導案

指導者 森長 俊六

- 日時** 令和2年12月4日(金) 第2限 9:40~10:30
- 場所** 美術教室
- 学年・組** 中学校1年C組42人(男子22人 女子20人)
- 題材** 絵文字を楽しむ
- 目標**
1. 伝えたい内容や意図を適切に表現できる。(知識及び技能)
 2. 豊かな発想で多くの構想を練る。(思考力, 判断力, 表現力等)
 3. 絵文字に関心を持ち, 楽しく取り組もうとする。(学びに向かう力, 人間性等)

指導計画(全8時間)

- 第一次 課題の理解とアイデアの創出 1時間(本時)
- 第二次 アイデアの深化 2時間
- 第三次 下描き, 着彩 4時間
- 第四次 鑑賞会 1時間

授業について

絵文字は, 文字の一部を絵に置き換えたり, 文字全体を装飾・変形させたりして文字の持っている意味やイメージを楽しく見る人に伝えようとするものである。自分の思いも込め, 見る人にもわかりやすく伝える力を楽しみながら身に付けることができる題材である。

このクラスは, 中学生になって靴のデッサンを行い, 形をきちんと捉える学習を行った。その後, 色彩に関する学習を行い, デザインセットを使って平面構成を行った。二学期に入ってから, ピクトグラムデザインを行い, 「和」や「伝統」を意識しながら粘土で和菓子を制作した。それぞれ集中して真剣に取り組むことができる。しかし毎回「アイデアが浮かばない」とか「もうこれでいい」と言って構想を練ることに対して追究の甘い生徒が見受けられる。この傾向は, このクラスに限ったことではなく, 他の中学生や高校生においても構想段階でアイデアを膨らまそうとしない, いや, アイデアが浮かんでこないという生徒は少なくない。その点, 漢字を元に発想することができるこの題材は, スタートの材料が身近で豊富である。

最初に先輩たちの作品を鑑賞させ, それらの作品がどのような課題として制作されているか考えさせる。その趣旨を理解した上で, 各個人が作者の工夫に目を向け, 次に他者との交流を通して見方や感じ方を深めさせる。その後, 作品制作へとすすむ。構想段階では他者との交流も行うが, まずは自問自答しながら構想を練ることに重点を置く。

本時の目標

1. 伝えたい内容や意図を適切に表現できる。(知識及び技能)
2. 課題の趣旨を理解し, 豊かな発想で多くの構想を練る。(思考力, 判断力, 表現力等)

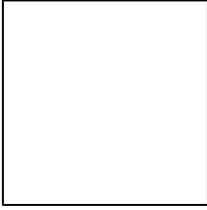
本時の評価規準(観点/方法)

1. 伝えたい内容や意図を適切に表現しようとしている。(知識及び技能)
2. 課題の趣旨を理解し, 豊かな発想で多くの構想を練ろうとしている。(思考力, 判断力, 表現力等/ワークシート)

本時の学習指導過程

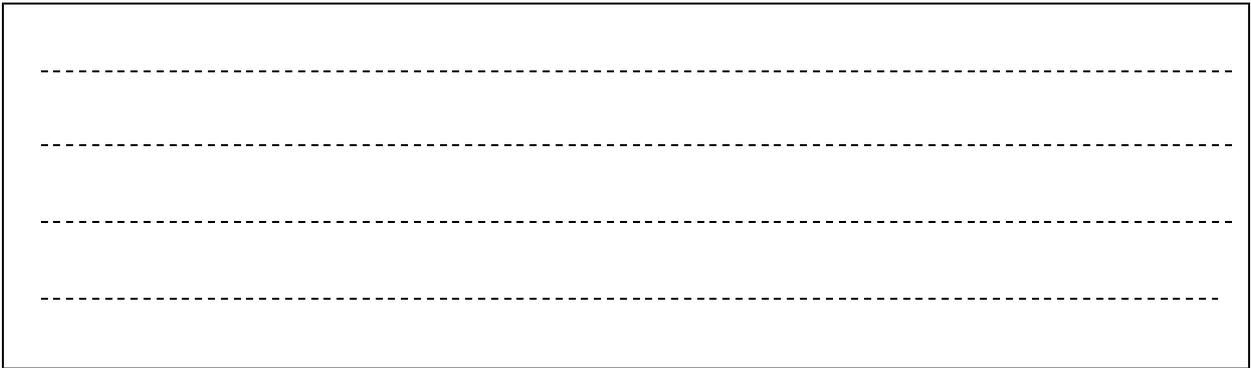
学習内容	学習活動	指導上の留意点
課題の理解 (10分)	○参考作品を見てどのような課題か考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">興味をもつ</div> 課題 ・漢字の一部を絵に置き換えて漢字の意味をより強調する。 条件 ・漢字部分はレタリングする。 ・色数は制限無し、など	○参考作品を見せ、どのような課題で、どのような条件の元、制作されているか考えさせる。 ・漢字の意味を強調する(漢字への思いを込める)
個人での鑑賞 (5分)	○3～4人のグループに分かれ、参考作品とワークシートを受け取る。 ○個人で鑑賞する。 ・作者の工夫を造形的視点も踏まえて鑑賞する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">読み取る</div>	○造形的な視点を促す。 ・書体、色、形、構成、バランス ・台紙の色にも目を向けさせる。
グループでの鑑賞 (10分)	○課題や制作条件を踏まえ、グループ内で感想を述べ合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">話しあう</div>	・一人では気付かなかったことに気づき、他者との意見の交流を通して見方や感じ方を深めさせる。 マスクは外さない 大きな声で話さない 気づきをメモする
全体での鑑賞 (10分)	○グループで鑑賞した内容を全体に発表する。	
アイデアの創出 (10分)	○ワークシートに構想を練る。 ・思いつく漢字を絵文字にする。 ・話し合いの成果を踏まえアイデアをふくらませる。 ・文字(偏や旁)と絵の組み合わせを再考する。 ・書体や絵柄の組み合わせでより明快にする工夫を考える。	・できるだけたくさんアイデアを考えさせる。 ・品詞(名詞、動詞、形容動詞・) ・配色もイメージしながら考えさせる。 ・直接的な表現もよいが、少し考えさせるものもよい。
まとめ(5分)	○課題や条件の確認	
準備物 生徒：教科書(日本文教出版)、副読本(秀学社)、クロッキー帳、漢字辞典 教師：参考作品、ワークシート、電子黒板、書画カメラ、大型TV		

選んだ絵文字

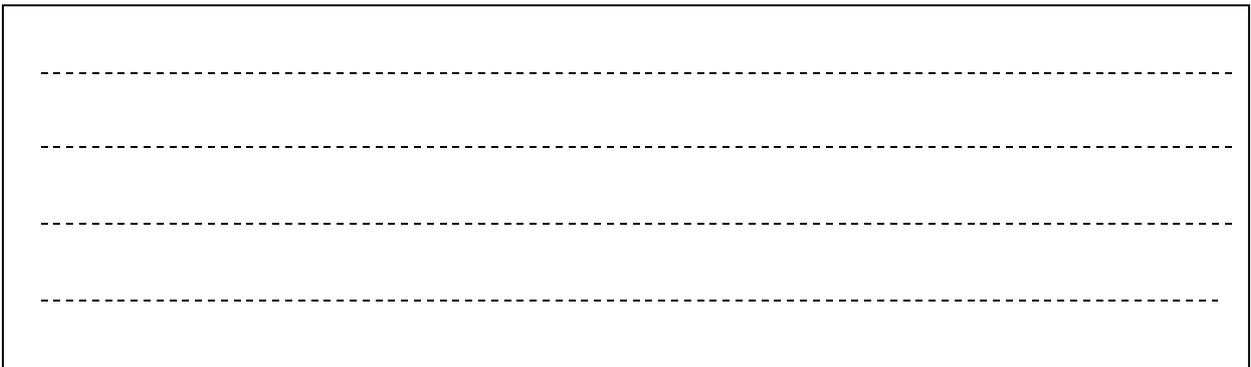


1年 組 番 名前

1. 個人での鑑賞（作者の工夫，造形的な視点など）



2. グループでの鑑賞（自分とは違った見方・感じ方）



3. 他グループの作品（制作のヒント，メモ）



実践上の留意点

1. 授業説明

本授業の工夫点は次の通り

- ①発想のヒントとして多くの作例を示す。また、取りかかりやすい発想の視点として品詞の視点を示す。名詞が比較的取りかかりやすい。
- ②個人での鑑賞の後、グループでの意見交換をすることによって自分とは違う他者の見方感じ方を知る。鑑賞を深め、自作品の発想の幅を拓けることにつなげる。

2. 研究協議より

質) 参考作品を見せれば見せるほど、新たな発想を狭めるということがあると思うが、どのように考えているか。

→美術科では参考作品を見せることの功罪は常に言われてきており加減が難しいところである。今回はたくさん見せた。ただ見せた以上に漢字の数は膨大であり、制作の糸口を示したに過ぎないと考えている。生徒に見せた作例のように同じ「乳」という字であっても牛乳パックを描いたり、ほ乳びんを描いたり表現は多様である。また、ワークシートにたくさん考えさせることによって、色々な見方考え方や発想力が身に付いて高校での課題研究に生かせるのではないかと考えている。

質) 作例を品詞で分ける場面では、生徒に何の違いで分けているか考えさせる場面があったが、生徒は集中して特徴を読み取ろうとしていた。構想段階では、たくさんアイデアを描かそうとしていたが1つに絞り込むにはどうするのか。

→ある程度アイデアが出て絞り込む段階でどれにするか、まず自分で判断して見せに来させる。その時、これの方が分かりやすいねとか生徒と対話をしながら絞り込んでいく。注意すべき点はやる気を起こさせるような声かけをすること。

3. 助言者より

・今日の授業は、この題材全8時間の最初の授業である。ねらい、趣旨、面白みなど、様々な事例紹介や質問をしながら生徒の心を掴みうまく導入をした。

・参考作品を配って、まずは一人で鑑賞し自分なりの考えを持つ。そしてグループで話し合う。他者の見方感じ方の価値を共有するというメリットが生徒たちの発想の手がかりになっていくという順番が良い。

・制作に当たっては自由ではなく条件を決めたりいくつかのルールを決めたりしていた。台紙の色も選べるというのは大事な美的行為である。

・導入の進め方が本時のねらいである「発想力を伸張する、培う」というねらいであると強く感じた。最初の授業として発想の手がかりを得ることのできる授業であった。

・美術の学習活動・表現活動に正解はない。正解のない問に対して自分で問いを探していく。能動的な学習・アクティブ・ラーニングと言われているが、そもそも美術の学習は今日のように色々与えられながら自分で問いを立て、課題を発見したり試行錯誤して自分なりの答えを見いだす、そういう営みである。こういう営みがこれからの時代、解のない複雑な社会ををどう生きていくのか、これがよく言われている生きる力であり、そういう力になり得る授業であった。

